

SOCCER TOCHIGI COMMUNICATION MAGAZINE

SOCCER TOCHIGI

(社) 栃木県サッカー協会事務局

〒320-0834 宇都宮市陽南2-12-19
TEL 028-684-6900 / FAX 028-684-3330
URL <http://www7.ocn.ne.jp/~tfa/>



vol.72

平成18年2月10日発行

contents

- ① 審判登録更新受付
- ② JFCファイターズ 準優勝!
- ③ 第34回栃木県少年サッカー選手権大会
- ④ 峰FCアマレーロがフットサルで全国へ
- ⑤ シニアサッカー記録
- ⑥ 審判を担当して
- ⑦ 高校サッカー記録
- ⑧ 質の高い指導者の確保を目指して
- ⑨ 埼玉県・栃木県社会人サッカー連盟 選抜交流大会
- ⑩ 国体成年栃木県チームにおけるメディカルサポート体制について
- ⑪ 国体V3達成!
- ⑫ 栃木県サッカー選手権大会初優勝
- ⑬ 地域だより

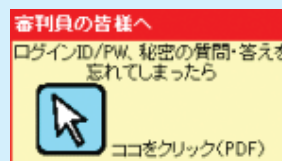


審判更新講習会受講受付中です。平成18年度も引き続き審判活動をされる場合は、必ず更新講習会を受講してください。受講申込みは

<http://www.jfa.or.jp>

ID/パスワードを忘れてしまった方は、再発行の申請をしてください。
申請書は(社)栃木県サッカー協会ホームページからプリントアウトしてください。

<http://www7.ocn.ne.jp/~tfa/> ⇒



FAIR PLAY PLEASE  フェアプレイを心がけましょう

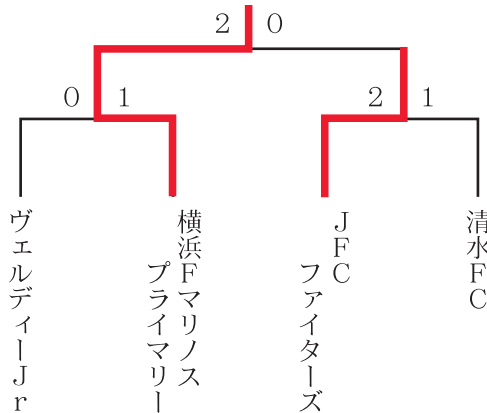
JFCファイターズ 準優勝！



＜県大会優勝のJFCファイターズ＞

平成17年8月7日から13日まで、Jヴィレッジおよび西が丘サッカー場で、第29回全日本少年サッカー大会決勝大会が開催された。本県代表のJFCファイターズ（芳賀）は、1次リーグ2次リーグを1位で勝ち抜き、見事決勝戦に進み、準優勝という輝かしい成績を収めた。

～第29回全日本少年サッカー大会決勝大会～



第29回関東少年サッカー大会

平成17年8月13日・14日、神奈川県立体育センタ他会場にて、関東8都県から選ばれた24チームが、熱戦を繰り広げた。

本県代表として参加した、FC西那須21アストロ、栃木SCジュニア、間東FCミラクルズの各チームは、1位リーグには進めなかったものの、好プレーを随所に見せ、善戦した。

＜1回戦リーグ＞

FC西那須21アストロ	(1分け1敗)	3位
栃木SCジュニア	(2分け)	2位
間東FCミラクルズ	(1分け1敗)	3位

＜2位パート＞

栃木SCジュニア	1-0	FC六会湘南台
栃木SCジュニア	0-2	古河SSS

＜3位パート＞

FC西那須21アストロ	0-3	高崎ドリームス
間東FCミラクルズ	0-0	沼田FC
	PK 7-6	
間東FCミラクルズ	2-0	すみれFC Jr
間東FCミラクルズ	0-2	高崎ドリームス

日韓共同未来プロジェクト 栃木U-12韓国遠征 (第23回栃木県少年サッカー連盟海外遠征)

平成17年8月22日から25日まで、3泊4日という日程で海外遠征が実施された。本年は、文部科学省の「日韓共同未来プロジェクト」として支援を受け、役員12名、添乗員1名、選手65名が参加した。



＜蚕室オリンピックスタジアムにて＞



＜バジユ国家代表トレーニングセンターにて＞

1日目は、統一展望台などソウル市内を見学し、ホテルへ。

2日目、3日目は、栃木県選抜4チームと韓国12チームとの間で親善試合を行った。

4日目は、ロッテワールドで過ごした後、帰国の途について。

帰国時、日本では台風の上陸が心配され、帰国便を早め無事に栃木県へと帰ることができた。

- 試合結果 栃木選抜A (1勝2分け)
- 栃木選抜B (1勝1分け1敗)
- 栃木選抜C (1勝2敗)
- 栃木選抜D (2勝1分け)

第27回利根コカ・コーラ杯争奪 東関東少年サッカー大会

平成17年8月28日、本県の湯津上村ジョイクラブを会場に、栃木県、千葉県、茨城県の4・5・6年生による24チームが参加し、熱戦が繰り広げられた。

- 6年生の部
 - 下都賀2-0茨城B
 - 下都賀2-0千葉S
 - 両毛1-3茨城A
 - 両毛1-2千葉N
- 5年生アの部
 - 宇都宮0-1ばらき
 - 宇都宮2-4大森SC
 - 塩谷0-6鹿島
 - 塩谷1-8柏

＜決勝＞

- 下都賀2-0千葉N
- 5年生イの部
 - 北那須1-1K II
 - 北那須0-4フッチ
 - 南那須1-9神谷
 - 南那須1-12藤崎
- 4年生の部
 - 芳賀0-0総和
 - 芳賀1-2船橋
 - 上都賀3-0下館
 - 上都賀0-3イゲル

第34回栃木県少年サッカー選手権大会

平成17年10月15日・22日・29日・11月3日の4日間にわたって、194チームが参加し栃木県のNO.1を競って試合が行われた。

また、4年生以下のジュニアの部は、10月22日・29日の2日間、64チームが参加して行われた。



<開会式～入場行進>

決勝は下都賀地区同士の対戦となったが、FC栃木ジュニアが地区大会での借りを返し、優勝の栄冠を勝ちとった。



<優勝したFC栃木ジュニア> <準優勝のSAKURA FC Jr>

○準決勝

FC栃木ジュニア	3-0	アバンセSC
SAKURA FC Jr	0-0	JFCファイターズ
PK	3-1	

○決勝

FC栃木ジュニア	2-1	SAKURA FC Jr
----------	-----	--------------

●選手権の部大会成績

優勝	FC栃木ジュニア
準優勝	SAKURA FC Jr
3位	アバンセSC
3位	JFCファイターズ
フェアプレー賞	南赤塚FC
努力賞	FCプロケード
シ	佐野サッカースポーツ少年団
敢闘賞	西原FC

●ジュニアの部大会成績

- ・ヤシオツツジ(1位)・トーナメント
優勝 ともぞうSC上河内
- ・ニホンカモシカ(1位)・トーナメント
優勝 OMFC



<ともぞうSC上河内>



<OMFC>

バーモントカップ 第15回全日本少年フットサル大会栃木県大会

平成17年11月5日・6日、清原体育館他会場で、フットサル大会が開催された。大会には、各地区予選を勝ち抜いた32チームが参加し、平成18年1月に行われる全日本大会をめざし、好試合が展開された。



<優勝した益子SCストラダ>

決勝戦は、益子SCストラダ対ジェフユナイテッド・市原・千葉宇都宮スクールの間で行われ、1点を競う緊迫した試合となり、益子SCストラダが全日本少年フットサル大会への切符を勝ち取った。

○準決勝

ジェフユナイテッド宇都宮	3-2	南赤塚FC	A
益子SCストラダ	5-2	赤見FC	

○決勝

益子SCストラダ	2-1	ジェフユナイテッド宇都宮
----------	-----	--------------

第16回栃木県少年サッカー8地区選抜大会

●6年生の部

Aブロック

南那須	3敗
下都賀	2勝1分
芳賀	2勝1分
塩谷	1勝2敗

Bブロック

上都賀	1勝2敗
北那須	1勝2敗
両毛	2勝1敗
宇河	2勝1敗



<優勝した下都賀>

決勝	
下都賀	1-0 両毛

●5年生の部

Aブロック

芳賀	2勝1敗
両毛	1勝2敗
北那須	1分2敗
宇河	2勝1分

Bブロック

下都賀	3勝	
南那須	3敗	
上都賀	1勝1敗1分	決勝
塩谷	1勝1敗1分	下都賀 4-1 宇河



栃木県少年サッカー連盟公式ホームページ
<http://www.tjfa.jp/>

峰FCアマレーロがフットサルで全国へ

本県初のティファールカップ第2回全日本女子選手権大会出場

本大会を終えて1か月が経ち、今一つ一つを振り返ってみると、個人としてもチームとしても、これからつながるいい経験になったと思います。私たちアマレーロは、今年の4月に新メンバーを迎え、高い意識と目標を持ち、「わきあいあい。でもプレーは妥協しない」というコンセプトのもと練習をしてきました。県大会予選を1位で突破、3度目の関東大会出場が決まると、チームの雰囲気はよい意味で緊張してきました。関東大会では、練習がすべて結果につながったと思います。レベルの高い関東大会での3位という結果には満足しています。

しかし初めての全国大会は、関東大会でつけた自信と未知への不安がいつの間にかプレッシャーになり、峰FCの「わきあいあい」が消えてしまいました。結果は1勝2敗（3試合ともスコアは2対1）で予選敗退…。結果には満足いきませんが、ちゃんと受け止めたいと思っています。

全国大会に出場し、選手たちはいろいろな感じ方をしたと思います。今回、全国のチームや選手のレベルを実際に見たり感じたりできたことは本当に意味がありました。アマレーロはこれからのチームだと思っています。今回の経験を自分たちのレベルアップにつなげるよう、みんなでまた頑張っていきたいと思います。（峰FCアマレーロ 宮川進）



＜全国大会出場を果たした峰FCアマレーロの選手たち＞

女子トライアルFA「栃木ウィメンズカレッジ」を開催

11月26、27日（県グリーンスタジアム）、12月3日（野木町総合運動公園）の3日間、日本サッカー協会の女子トライアルFA事業として「栃木ウィメンズカレッジ」を開催しました。これは2001年度から昨年度まで日本協会主導で実施していた「ウィメンズカレッジ」を、より栃木の実状にあった内容で継続的に行おうという試みで、今年度は指導者講習会（勉強会）と初心者向けのサッカー教室を実施しました。

26日の指導者講習会では、本県女子連盟所属で日本サッカー協会ナショナル女子トレセンコーチの私が講師となり、日本及び世界の女子サッカーの現状やコーチング法の講義と実技を行いました。

サッカー教室には、小学1年生～高校生の女の子たちが、グリーンスタジアムに160名、野木町総合運動公園に80名集まり、すばらしい芝の上で伸び伸びとサッカーを楽しみました。今回のサッカー教室を開催するにあたり、サッカー場周辺地区の小、中学校に声を掛けさせていただいたお陰で、多くの初心者の女の子たちがグラウンドに足を運んでくれました。そして参加者からは「またサッカーがやりたい！」という声が上がっていました。私たち女子連盟は、この女の子たちの声を絶やすこと

なく、安心して楽しくサッカーが続けられる環境を整えて行くことを、改めて強く感じました。（女子トライアルFA担当 手塚貴子）



＜合計で240人の女子がサッカーを楽しんだ教室＞

インターハイ種目へ「第1回関東高校女子大会」

「女子サッカーをインターハイの正式種目にしよう！」という構想から、関東1都7県の高校女子サッカー専門部を立ち上げ、昨年、プレ大会を開催しました。この大会を、今年は「第1回関東高校女子サッカー大会」として11月19、20、26、27日の4日間にわたり埼玉県で開催しました。

本県からは春の県総体の上位2校の文星女子高、宇都宮女子高、夏に行われた第3代表決定戦の勝者・大田原女子高の3校が出場し、関東各都県の代表24校が初代女王の座を争いました。

19日は、埼玉県妻沼町の利根川総合運動公園で1、2回戦が行われました。本県第1代表の文星女子高は、2回戦からの登場で久喜高（埼玉）に快勝しました。しかし準々決勝は湘南学院高（神奈川）との対戦で0-2と敗れました。宇都宮女子高は1回戦で成田北高（千葉）に惜敗。2回戦まで進んだ大田原女子高は、この大会の優勝校・埼玉平成高相手に敗退しました。

大会は、昨年のプレ大会に続き、埼玉県勢が上位3位までを独占という結果で終了しました。今後、全国の高女子チームが各都道府県の高体連に加盟するなどして、地域大会が発展し、全国大会であるインターハイの正式種目となることを願っています。

（作新学院高校女子サッカー部顧問 浅野浩之）

本県6選手がU-15ナショナルトレセン目指す

今年度初めての試みで、女子U-15年代を対象にナショナルトレセンが12月27-29日にJヴィレッジで開催されます。それを受け、全国9地域で地域トレセンが発足、関東トレセンも9月から11月まで3県で延べ5日間、行われました。各県のトレセンとも手探りで、運用、選手選考と模索しながらでしたが、スタッフそれぞれが協力し合い、無事、関東地域推薦選手16人をナショナルトレセンへ送り出しました。

もちろん本県からも6選手が関東トレセンに参加しましたが、ナショナルトレセン推薦選手にはなれませんでした。本県女子はトレセン制度がまだ浸透していないため、選手たちも意識の高さやパフォーマンスをアピールすることが、他県の選手と比べ少ないように映りました。最大限に自分を表現することの必要性を強く実感しました。

このナショナルトレセンは今後も継続される事業です。本県選手の今後の頑張りに期待しています。（技術委員長 染川哲範）

シニアサッカー記録 1

・第18回 ねんりんピック福岡2005
サッカー交流大会（60歳）

2005年11月 12(土)、13(日)、14(月)

博多の森陸上競技場

栃木大昭サッカークラブ

- ①栃木大昭サッカークラブ 1 = 0 石川県
- ②栃木大昭サッカークラブ 0 = 0 福井県
- ③栃木大昭サッカークラブ 5 = 1 島根県

・参加選手 18名

吉沢 茂弘	若色 秀行	岸 庄一
田崎 誠一	上野 哲男	伊澤 好宏
土井 五郎	高田 俊治	佐藤 有三
加藤 吉一	鈴木 浩	高橋 暉
斉藤 藤久	相場 淳一	山田 昇
蕎麦田正男	石川 陽一	野中 克也

第18回全国健康福祉祭ふくおか大会（ねんりんピックふくおか2005）は天候に恵まれ、福岡県民の皆様をはじめ、大会参加の各チームとも交流を図ることが出来、大変有意義な大会でした。

お蔭様をもちまして、栃木大昭サッカークラブは、石川県、島根県に連勝し、オープンマッチの福井県とは、引き分けとなりましたが、各3試合共に、約7割方ボールをキープし、見事ブロックでの優勝を果す事が出来ました。大会参加に当りまして、県民の皆様方の応援を頂き有り難う御座いました。



<栃木大昭シニアSCのメンバー>

シニアサッカー記録 2

・第18回全国スポーツ・レクリエーション祭
スポレク岩手2005 壮年サッカー大会（50歳）

2005年10月 1(土)～4(火)

岩手県花巻市スポーツキャンプ村サッカー場

栃木平成シニアサッカークラブ参加

- ①栃木平成シニアSC 2 = 0 大分県
- ②栃木平成シニアSC 0 = 3 石川県
- ③栃木平成シニアSC 0 = 0 京都府

※6チームの変則リーグ。優勝チームが勝ち点5だったとは!! 石川県には不覚をとってしまったが、京都に勝ってれば勝ち点6で優勝が・・・あったのに!!

・参加メンバー

1 満天屋庄三	2 渡辺 隆	3 和田 清
4 大山 道夫	5 丸山 政光	6 信濃 繁好
7 鈴木 浩	8 斉藤 藤久	9 大坪 和巳
10 檜山 敏夫	11 野中 克也	12 斉藤 茂樹
13 臼井 幸男	14 佐藤 博美	15 阿久津弘幸
16 土井 五郎	17 高橋 暉	18 阿久津好夫



<栃木平成シニアSCのメンバー>

・第25回武田の里サッカーフェスティバル全国招待交流試合

2005年11月 4(金)、5(土)、6(日)

山梨県韮崎中央公園陸上競技場

シニアの部交流試合(60歳代)

・栃木大昭サッカークラブ参加

- ①栃木大昭サッカークラブ 1 = 2 山梨60雀A
- ②栃木大昭サッカークラブ 2 = 0 静岡羽衣FC
- ③栃木大昭サッカークラブ 0 = 2 三重四日市SC

・参加選手15名

大高 和	石川 茂治	北山 亮
栗原 克夫	天川 裕之	大関 達雄
阿久津好夫	高久 勝美	土井 五郎
高野 勝男	中園 昌明	鈴木 久夫
見當 英繁	渡辺 隆	臼井 幸男

高校サッカー選手権大会 栃木大会決勝戦を担当して

関谷 宣貴

2005年11月12日、栃木県グリーンスタジアムで行われた、真岡高校対小山南高校の決勝戦で私は、副審を担当しました。

今まで多くの試合を担当してきましたが、決勝戦でしかも、テレビの生中継がある試合はほとんどない事なので、少し緊張して会場入りしました。試合開始までの間は、両チームとのマッチミーティング、主審の相良氏、同じ副審の阿久津氏、第4の審判員の福田氏との試合前の打ち合わせ、アップ等、リラックスした雰囲気キックオフを迎えました。

試合の方は、真岡高校が、フォワードへのロングボール、そしてそのサポートとスペースへの走りこみでチャンスを作り、前半に先制。対する小山南高校は、ショートパスから両ウィングバックのサイド攻撃を展開。しかし、最後まで真岡高校の守備を突破できずにそのまま、1-0で試合終了となりました。両チームとも自分たちの特徴を出し合い、イエローカードが2枚出たもののフェアな試合で、観戦している人達も楽しめたと思います。

私自身は、落ち着いて試合に集中でき、副審の任務も無難にこなせたと思います。特に試合終了後は、大役を果たせた安堵感と、無事に試合を終えたという充実感がありました。

今回、このような役を与えられた責任を感じ、これからの日々のトレーニングに励み、自分自身のレベルの向上を図りたいと思います。

最後に、この大会に携わった関係者・役員の方々、普段から叱咤激励してくれる審判指導員の皆様、同じ志を持つ審判員の仲間達、そして、いつも支えてくれる家族に、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

社会人審判委員会の割当を担当して

審判委員会 菅野 仁和

「菅野、悪いけど俺を手伝ってくれないか？」社会人連盟審判委員長伊藤章氏からそう言われたのは1月の事でした。私にとって伊藤氏は審判委員長という存在だけではなく、審判での師という事もあり、「私に出来る事があれば良いですよ。」と即答しました。こんな事から、私は2005年度の社会人審判委員会の審判割当を担当する事になりました。



社会人審判委員会から審判を派遣する大会は、関東や県の社会人リーグ、県大学リーグ等のリーグ戦と、北山杯やクラブ選手権等のトーナメント戦があります。私は主としてリーグ戦の割当を担当することになりました。これらの大会に審判員を派遣する訳ですが、様々な要素を考えながらどの試合に誰を割当するか考えるのは簡単な事ではありません。シーズン前には、「割当に対して注文を付ける人はいないだろうか。」「皆が協力してくれるだろうか。」等の心配がありました。しかし、伊藤氏の「お前に任せるから自由にやってくれ。責任は俺が持つから。」という心強い一言で、安心して自由に割当をする事にしました。

私は、私なりの方針（考え）を持って割当をする事にしました。それは、

- ① 育成対象者に主審の機会を多くする。
- ② 若手とベテランを同じ会場にし、反省やアドバイスが出来る環境を作る。
- ③ 同じチームへの割当やダブル（2試合続けての審判）は極力少なくする。

の3つです。そして、2005年度がスタートしました。

シーズン中は、会社から帰ってくるとパソコンを立ち上げて割当とにらめっこする事が日課となり、正直苦勞しました。しかし、シーズン前に心配していた様な事はなく、むしろシーズンを通して先輩方から色々なアドバイスや意見を頂けたので、次に行う割当の参考にする事が出来ました。アドバイスを下さった先輩方には、この紙面をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

2005年度に私が行った公式戦の審判割当結果を報告しますと、3月27日～10月16日の期間で9大会/267試合/延べ563名（派遣49名）となります。

また、シーズンを終了しての感想で嬉しかった事は、

- ① 大先輩である奥澤浩氏から、「最初にしては80点位の出来だと思います。」との合格点？を頂いた。
- ② 直前のキャンセルがあり他の方にお問い合わせした時に、直前にも関わらず「菅野さんからの依頼じゃ断れないですね。」と言って協力してくれる方がいた。
- ③ 新しい審判仲間が出来、ダブルの試合数が減った。等が挙げられます。一方、反省や今後の課題では、
- ① 割当の連絡ミスにより、審判が会場に来ない事があった。
- ② 該当審判員以外の関係者への連絡が不徹底だった。
- ③ まだまだ審判員数が不足しており、協力者を増やす必要がある。

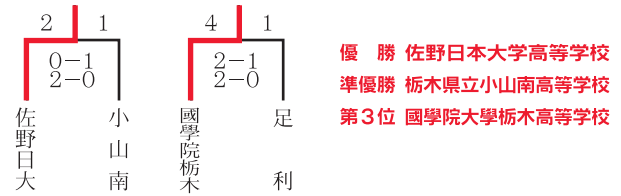
等が挙げられます。2006年は1つでも改善していくつもりです。

最後になりましたが、ご協力下さった審判員の皆様、本当にありがとうございました。2006年も引き続き割当を担当させて頂く事になると思いますが、どうぞ宜しくお願い致します。また、「私もやってみたい。」と思う方がいましたら遠慮なくご連絡下さい。お待ちしております。

平成17年度 栃高体連中部支部サッカー-新人大会予選リーグ結果

A										D										
真岡	鹿沼	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	
真岡	0-1	0-0	0-1	0-3	0-1	0-1	0-1	0-1	0-1	宇都宮	0-1	0-0	0-0	0-0	0-0	0-0	0-0	0-0	0-0	0-0
鹿沼	1-2	2-2	0-0	0-0	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	宇都宮	0-1	0-0	0-0	0-0	0-0	0-0	0-0	0-0	0-0	0-0
宇都宮	0-1	2-2	0-0	0-0	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	宇都宮	0-1	0-0	0-0	0-0	0-0	0-0	0-0	0-0	0-0	0-0
宇都宮	0-1	2-2	0-0	0-0	1-1	1-1	1-1	1-1	1-1	宇都宮	0-1	0-0	0-0	0-0	0-0	0-0	0-0	0-0	0-0	0-0

決勝戦・3位決定戦結果



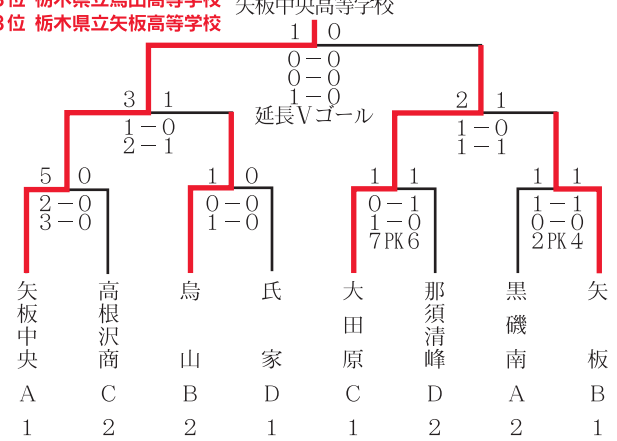
優勝 佐野日本大学高等学校
準優勝 栃木県立小山南高等学校
第3位 國學院大学栃木高等学校

平成17年度 栃高体連北部支部サッカー-新人大会予選リーグ結果

A					B				
矢板中央	黒磯南	黒羽	馬頭	勝点	烏山	矢板	那須沼	矢板東	勝点
矢板中央	0-3	0-0	0-0	9	烏山	0-1	0-1	0-0	6
黒磯南	0-3	0-0	0-0	6	矢板	0-1	0-0	0-0	7
黒羽	0-8	0-1	0-0	3	那須沼	0-1	0-0	0-0	4
馬頭	0-7	0-7	0-7	0	矢板東	0-2	0-2	0-1	0

平成17年度 栃高体連北部支部サッカー-新人大会決勝トーナメント結果

優勝 矢板中央高等学校
準優勝 栃木県立大田原高等学校
第3位 栃木県立烏山高等学校
第3位 栃木県立矢板高等学校



平成17年度 栃高体連南部支部サッカー-新人大会1次リーグ結果

A										D										
小山南	小山西	足工大附	引分	勝点	得失点	得失点	得失点	得失点	得失点	白鷲足利	青藍泰斗	壬生	引分	勝点	得失点	得失点	得失点	得失点	得失点	
小山南	0-1	0-0	0-0	2	0	0	0	0	0	白鷲足利	0-0	0-2	0-0	2	0	0	0	0	0	0
小山西	0-1	0-0	0-0	1	1	1	1	1	1	青藍泰斗	0-6	0-1	0-1	1	1	1	1	1	1	1
足工大附	0-7	0-3	0-0	0	2	0	0	0	0	壬生	2-4	0-1	0-1	0	1	1	1	1	1	1

2次リーグ結果 (1次リーグ各グループ上位1位)

①					②				
小山南	國學院栃木	小山	勝点	得失点	白鷲足利	佐野日大	足利	勝点	得失点
小山南	0-1	0-0	1	1	白鷲足利	0-2	1-2	0	0
國學院栃木	0-1	0-0	1	1	佐野日大	0-2	0-3	0	0
小山	0-0	0-1	0	0	足利	0-2	0-3	1	0

学校紹介

栃木県立益子芳星高等学校
サッカー部

監督 谷中次夫
コーチ 金沢誠也
顧問 刀鉄也、澤村哲史

平成17年4月に益子高校と芳賀高校の統廃合により栃木県立益子芳星高等学校が益子高校の校舎に誕生した。現在のサッカー部は、1年生8名(益子芳星高校)2年13名(12名が益子高校、1名が芳賀高校)女子マネージャー1名(益子芳星高校1年)の合計22名である。中部地区新人大会より、統廃合による合同チーム(益子芳星高校)として参加している。



▲益子芳星高サッカー部、よろしくお願ひします。

質の高い指導者の確保を目指して

技術強化委員会指導者育成

JFAの公認指導者登録制度が2004年度からスタートし、2年目を迎えた。この、JFA指導者資格(ライセンス)付与制度は、ただ単に「資格を発行する」「資格を取る」といったものではなく、各養成講習会のカリキュラムを通して、科学的な知見や最新の強化育成に関する情報の獲得を図り、各カテゴリーの指導者が持つさまざまな経験を加味させて、「サッカー指導者」として成長していくことを目指している。

現在、JFAでは、サッカー指導者としての第一歩となる「公認D級コーチ」からプロチームやその選手を対象とした「公認S級コーチ」まで5つの資格を認定している。(一部、日本体育協会との共同事業)また、各種の養成講習会を主催・主管(一部、47都道府県サッカー協会)、所定のカリキュラムを修了して認定試験に合格し、JFA指導者登録制度の登録手続きを終了した時点で、JFAから正式に資格が付与されている。

栃木県においても、公認C級コーチ年2回、公認D級コーチ年1回を実施している。今回は、公認C級コーチについて紹介していきたい。

この制度では、今までは、各都道府県で開催される旧・公認準指導員養成講習会(今年度からは公認C級コーチ養成講習会)として開催されていたものを地域C級スポーツ指導員と合わせ、公認C級コーチとなった。栃木県サッカー協会が主管となり、技術強化委員会で開催している。直井規男スクールマスターを中心に、JFA公認インストラクターと一緒に質の高い指導者育成のために取り組んでいる。

C級コーチの主な内容には次のようなものがある。

1 全42時間(6日間)+通信教育(8時間)

2 内容

(1) 基礎理論(講義)

- ① ガイダンス&サッカーの組織
- ② 発育発達と一貫指導
- ③ メディカルの知識
- ④ コーチング法
- ⑤ GK指導法
- ⑥ サッカーの戦術理論(攻撃・守備)
- ⑦ 競技規則とフェアプレー
- ⑧ 指導者の役割
- ⑨ 指導実践ガイダンス

(2) 実技

- ① サッカーとは&コミュニケーション
- ② 初心者への指導
- ③ ゴールを奪う(シュート)
- ④ ゴールを奪う(突破からシュート)
- ⑤ ゴールをめざす(コントロール)
- ⑥ ゴールをめざす(パス・ヘディング)
- ⑦ ボールを奪われない(身体の使い方)
- ⑧ ボールを奪う
- ⑨ ゴールを守る
- ⑩ ゴールを守る(ゴールキーピング)
- ⑪ スモールサイドゲーム

(3) 指導実践

(4) 筆記テスト

このC級コーチの指導対象年代は、主に小学生である。小学

校低学年から高学年までの幅広い指導内容を6日間集中して実施している。

講義では、指導者として、児童の発育・発達に伴う特徴を知り、救急処置やチームマネジメント、効果的な指導法について学んでいく。

実技では、児童がサッカーをいかに楽しく、かつ高い技能を身につけていくためのいくつかの効果的なトレーニング内容を紹介していく。その中で、指導者として、選手の技能を改善するための指導実践がある。これは、栃木県では6日間の講習会の中で、3回実施している。指導実践のポイントの一つに「ゲームフリーズ」がある。小学校高学年以降で、各トレーニングやスモールサイドゲームの中で、実践的な技術を子どもたちに伝え、改善し、高めていくためには、「ゲームフリーズ」が効果的になるからである。指導実践を通して選手に対してのコーチング法を学んでいる。

以上の講義及び実技を通して、技術強化委員会では、県内の指導者が質の高い指導者となり、小中高の選手育成に取り組んでくれることを念願してやまない。

来年度もC級コーチ養成講習会は年2回実施していく。詳細は、栃木県サッカー協会ホームページに掲載していく予定である。

御厨FC 1部昇格

御厨FCチーム代表者 河原信行

御厨フットボールクラブが栃木県社会人サッカーリーグに参加をして3年が過ぎ、今期は2部優勝、そして1部昇格を果たしました。

御厨FCは、少年のチームのOBを中心として今から4年前に発足した非常に若いチームです。現在、御厨OBとそれ以外の選手とは半々くらいの割合になりましたが、少年と社会人両方の監督である鈴木正則氏のもと、『強いよりも巧いといわれるようなチーム』を目指して頑張っています。

県リーグへは自分達の技術がどこまで通じるのか、どこまでいけるのかという思いから参加を決めました。1年目は諸事情により決勝大会へ出場するまでには至りませんでした。2年目はその悔しさをバネに戦いリーグブロック優勝、代表決定戦にも勝ち、決勝大会も優勝する事が出来ました。3年目の今季は県2部リーグ、期待と不安の混ざった心地よい緊張感を持って参戦する事が出来ました。少々順調すぎた感はありますが、自分達の力以上に運も大きかったような気もしています。

来期からは1部リーグです。今期までの御厨FCにはこれといった形はなく、主に個々の能力で戦ってきました。しかし、今年1年を振り返り組織としてのプレーが必要だという結論に至りました。個々の長所、個性を今まで通り消さずに組織としてのプレーをする事はなかなか難しいと思いますが、これからを戦っていく上では必ず必要になることだと思います。良い準備を行い、これからも足を止めることなく戦って行きたいと思っています。

最後になりますが、来期は名前も足利御厨ユナイテッドと改めまして市を代表するチームとなれるように、精一杯頑張りたいと思っています。



大学選抜チームについて

足利工業大学サッカー部 谷田部将司



大学ではこれまで選抜チーム等を年間通して選出・強化をしていくことがありませんでした。今年度私が始めたことはまず年間を通しての選出を軸に大学リーグで活躍している選手たちの個人の目標となるような地位づくりに勤めてまいりました。

その結果、栃木・群馬・茨城の3県でつくる北関東選抜のスムーズな選考

ができ、12月3日・4日に行われました都県選抜選考会においてみごと優勝することができました。

その後おこなわれた、関東1部リーグ選抜、関東2部リーグ選抜、都県リーグ選抜での選考会において都県リーグ選抜に北関東から4名に入ることができました。4名のうち栃木の選手は1名で白鷲大学の五十嵐 昌弥君でした。

今年度の活動記録・メンバーは以下のとおりです。

栃木県大学選抜スケジュール

6月 6日(月)

第1回 練習会兼選考会(18:30集合 白鷲大学グラウンド)

6月20日(月)

第2回 練習会兼選考会(18:30集合 宇都宮大学グラウンド)

7月 4日(月)

第3回 練習会兼選考会(18:30集合 白鷲大学グラウンド)

7月 5日(火)

栃木県成年国体とTM

(19:00キックオフ 栃木グリーンスタジアム 0-4)

8月 4日(木)

学習院大学との練習試合(会場:那須スポーツパーク 3-2)

8月 7日(日)

群馬県選抜との選考ゲーム(会場:上武大学 0-5)

9月 5日(月)

第5回 練習会(18:30集合 白鷲大学グラウンド)

9月19日(月)

第6回 練習会(18:30集合 白鷲大学グラウンド)

10月 3日(月)

第7回 練習会(18:30集合 白鷲大学グラウンド)

10月17日(月)

第8回 練習会(18:30集合 白鷲大学グラウンド)

11月19日(土)

群馬県選抜との選考ゲーム(会場:上武大学 2-5)

11月30日(水)

北関東選抜発足。練習Gで上武大と(結果4-1)

12月 3日(土)・4日(日)

都県選抜大会

予選リーグ

北関東 VS 埼玉 2-1

【得点者:鈴木(足工大) 杉浦(上武大)】

埼玉 VS 東京A 1-0

北関東 VS 東京A 2-2

【得点者:斉藤(上武大) オウンゴール】

予選リーグ1勝1分で1位

決勝戦

北関東 VS 神奈川 3-1

【得点者:金谷2(群馬大) 大和田(宇都宮大)】

栃木・茨城県大学選抜メンバー(18名)

GK 木村 朋寛(白鷲大) 川本 祐太(宇大)

DF 高谷 将吾(宇大) 吉野 大輔(足工大)

天野 大輔(白鷲大) 高橋 巧一(白鷲大)

大山正太郎(茨大)

MF 赤井 万宣(足工大) 中村 慎二(宇大)

深沢 壮(足工大) 萩原 裕大(白鷲大)

川島 翼(茨大) 川村 学(茨大)

大和田彰人(宇大)

FW 五十嵐昌弥(白鷲大) 鈴木 良治(足工大)

佐野 涼太(宇大) 森 康弘(宇大)

北関東大学選抜メンバー(18名)

GK 木村 朋寛(白鷲大) 飯田 健巳(上武大)

DF 川島 翼(茨大) 吉野 大輔(足工大)

菊池 泰生(上武大) 合澤 広敏(群大)

深沢 壮(足工大) 和田 英人(創造大)

MF 赤井 万宣(足工大) 大和田彰人(宇大)

杉浦 勇氣(上武大) 金谷 隼(群大)

井上 恭平(創造大) 森 康弘(宇大)

FW 五十嵐昌弥(白鷲大) 鈴木 良治(足工大)

高橋 哲也(上武大) 斉藤 理史(上武大)

埼玉県・栃木県社会人サッカー連盟選抜交流会

今年度で、第3回目となる埼玉県社会人連盟との交流会が行われました。今年、栃木県会場で年末の12月25日に県グリーンスタジアムにて両県の社会人1部リーグ選抜・2部リーグ選抜・連盟役員の試合が行われました。

前回までは、1部リーグと連盟役員の試合だったのですが、今年度から2部リーグ選抜の試合も行おうかと両県の話し合いで決まり開催することになりました。前回までは、1部リーグ選抜の試合は栃木県が2敗しており今回は地元の利をいかして勝利を目指しましたが、2対4で2部リーグ選抜においても0対4で負けてしまいました。来年度は、埼玉県開催で行われます。ぜひ1勝したいと思ってます。



＜白熱したゲーム＞

国体成年栃木県チームにおける メディカルサポート体制について

(財)日本体育協会公認アスレティックトレーナー
村上 憲治

はじめにこのような機会を与えていただいた協会の方々に感謝いたします。

国体チームに係わって3年である。その3年間がすべて優勝という偉業も達成できた幸運というよりも選手達の力によるものが大きく最大の感謝をしたい。

また大橋監督・飯島コーチ含め社会人連盟・県協会の皆様のサポートにも感謝いたします。

トレーナーとしてのテーマだが選手のパフォーマンスをいかに高めることができるか選手が置かれている状況でいかに最高のパフォーマンスができるか。

私自身試合の結果には拘らないようにしている。

初年度は関東ブロック直前の8月合宿から大橋監督から「選手たちを最高の状態にしてほしい」との依頼があった。

選手たち同士は旧知の仲、選抜チームであれそれぞれがコミュニケーションは取れていた。私自身初参加であり活動上選手とのコミュニケーションはかなり重要でいかに選手が自分を出してくれるか(メンタル面・ケガの面等)が最重要課題であった。

選手たちもトレーナーという職種に戸惑いを感じていたと思う。何をしてくれるだろう…? この時点ではほとんどの選手がトレーナーからのケアを受けたことがなかったようである。

初めは選手からの要望はそれほど多くなく私自身、選手のニーズよりも選手の信頼を得られるよう自分ができることを重視し理解してもらえよう活動を行ってきた。

その中でチームの柱となっている鈴木・只木・堀田選手などは特に自己管理能力が高く他の選手のお手本となり助けられることが多く活動にも理解し受け入れてくれたことが私自信の大きな力になった。

コミュニケーションや活動がしやすかった。

本大会でも宿舎の食中毒事件にも誰一人罹ることなく乗り切れたことも大きい。またこの年は国体ではじめてのドーピング検査を実行するということもあり、選手への説明も加え本大会前からの食事・サプリメント・薬剤の管理には十分注意をしてもらい対象となった選手から問題は出なかった。

昨年度は5月の選考会より参加になりチームに係わる時間も増えた。また、多少の選手の入れ替えもあったが前年からの選手の大きな入れ替えもなく活動には支障はなく前年度同様に活動をしてきた。

前年の反省より、低周波治療器や超音波治療器などを導入して、ケアの効率を上げた。ケアに関して選択肢が増えることは選手にとっても有効であると考えた結果である。

この年の開催は埼玉ということで、非常に暑く1回戦以外延長戦を行う状況であったため肉体的・精神的疲労をいかに取るかが、翌日の試合のパフォーマンスに関わってくる。

前年とは違い、環境も変わるのでそれに対応した。ただし夏場に毎日試合があるという状況は同じである。

今年はまさに選手・スタッフ含めチーム力の勝利だと思う。サブの選手がチームのために何が出来るか、積極的に取り組みスタメンもそういう選手に敬意を感じられた。選抜チームでは難しい

チームワークが芽生えたように思う。私自身毎年やっていることにはそれほど変化ない。本年度も治療器の導入を行った。

本年度の優勝は、私としては3年間の集大成と感じている。選手たちも初年度よりも体調管理の意識が高くなってきた。私がかかわったことでチーム力に大きな違いがあったかどうかかわからない。ましてそんな自負もない。ただ選手たちが自分に気づきより良いパフォーマンスを求めてきた結果である。

3年間のトレーナー室活用率を見ればそれを物語っている。初年度の本大会期間中トレーナー室活用率は平均60%で昨年度は治療器の導入の影響か平均80%程度に上昇している。本年度はほぼ全員が何らかの形でトレーナー室を活用している。そのおかげで休む暇なく対応に追われた。

これはただ単にすべてのトレーナー任せではなく、最低限の自己管理をしてそれ以外を要求してきた結果である。自己管理のレベルの高さを感じた。

毎年、ケガという状況で登録選手16名すべてベストパフォーマンスができたわけではない。初年度は1名が本大会直前にふくらはぎの肉離れを起こし、歩けない状態で大会入りし、期間中はリハビリのメニューのみを行っていた。

昨年度は、本大会初戦で捻挫し(結果骨折があった)プレーができないほどで治療のみ行っていた選手もいた。

本年度も例年以上にケガ抱えて大会に入ってしまった選手が大人数であった。登録選手16名ということもあり、本大会登録まで監督との連絡し状況確認をした。監督の理想とするチーム作りを手伝い、結果を残すことは同じである。ケガ人に関しての登録は一任された感じだった。厳しいようだが使えない選手より使える選手になる。チームを考えれば当然そうなるし、結果を優先にするならそうなる。監督と何度か話したこともあるが、せっかく一緒に来たチームだからあまり入れ変えたくないと言ったことがあった。状況的に連れて行くのが無理であろうと感じた選手も何人もいたが、ケガをした選手とも話しあい、本大会開催までの期間も多少あったので少しの可能性を信じ一緒に行くことを決断した。正直戦える状況ではなかったと思っている。

いつも選手のパフォーマンスは全責任を負っている覚悟でいる。結果が出れば選手のおかげ、出なければ自分のせいである。トレーナーという業務は常に影の存在である。トレーナーは目立たない方がいい。それは選手にアクシデントなどないからである。

ただし、常に選手には目も気も配らなくてはいけない。常に…である。

どうしてもトレーナーと言うとマッサージやテーピングが注目されがちだが、重要な要素としていかにストレスのない良い環境を与えられるかと考える。今回のような夏場の連戦では肉体的・精神的疲労は大きく、それが回復に大きな影響を与える。それはトレーナーひとりではできないことではなく、選手の理解と監督はじめサポートスタッフ全員の細かい配慮が重要であると考え。今回3連覇のできたのは大橋監督はじめスタッフの細かい配慮を抜きに考えられないと思う。それが私自身の活動の助けとなった。

私の活動を評価していただいている方も多少いるようだが、私は選手にいつも感謝しているし敬意を払っている。また、大橋監督含めスタッフにも感謝し、敬意を払っている。

3連覇はチーム全員とサポートスタッフ・社会人連盟・県協会の力であると感じている。

余談だが、実際の活動内容だがマッサージ・テーピング・ケガの処置・リハビリ以外に食事の内容の確認・摂取法・食事量の

チェック、サプリメントの内容確認・摂取法、飲料水の確認・摂取方法（飲水するだけでなく身体にかける＝冷却と発汗促進）、氷の確保・使用の限定、クールダウン（身体冷却＝ハーフタイム・試合終了後）の方法。

参考のために期間中の私の生活状況は平均睡眠時間3～4時間、就寝午前2時前後、起床午前5～6時、個人的自由時間食事中以外なし、外出（練習会場・大会会場移動以外）なし。

提案だが、メディカルスタッフの必要性はさらに感じる。ひとりのできる限界はある。

もう少し多くのサポートスタッフのバックアップがあればと思う。

自分自身が休みたいわけではなく、選手に対する更なるサポートを望む。

最後に、栃木県サッカー界の更なる飛躍を期待したい。

国際医療福祉大学保健学部理学療法学科
はせがわ整形外科クリニック

第60回岡山国体視察応援記

社会人サッカー連盟 矢島 正雄

平成17年度が始まってまもなく、私個人として（国体成年男子栃木選抜チーム）の3連覇に向けた準備が始まった。というのも過去2連覇した静岡、埼玉と決勝戦を優勝の瞬間を会場で、全身で感じられず悔しい思いをしたからである。そうなると今まで足を運んだことのなかった5月の連休中の選手選考会を見に行っていたのである。

ここで選抜された我等が栃木選抜が8月13、14日の関東ブロック大会で千葉県選抜に3-2、東京都選抜に1-0と勝利して順調に本大会出場を決めたのである。

点数的には競ったゲームに思えるが実際は危なげのない2試合であったと思う。（我々連盟スタッフも揃いのグレーシャツで少しは勝利に導く応援ができたかな、と勝手に思っております。）

本大会出場を決めた試合後、私として非常に記憶に残ることばがあります。それは、ある選手が「（2人が）いないから負けた！とは言われたくない」この短いことばの中に今年のチームは去年よりもっとまとまりがでて、これなら3連覇もかなり高い可能性がでてきたな！！と感じた、関東ブロック大会の2試合でした。そして9/10～13の決勝の地、岡山県での本大会の負けられない4連覇が始まった。初戦は桃太郎スタジアムでの開幕ゲーム、福岡県選抜との対戦で、2-0の勝利だったがもっと点差のついたゲームになってもおかしくなかった。（初戦ということもあり、少し硬さがあったかもしれない。）準々決勝は石川県選抜に4-1、準決勝は兵庫県選抜に4-0と快勝して、決勝は再び桃太郎スタジアムだ！ついにきた、3年越しの感激の瞬間を眼で見て、全身で感じられる！地元の中学生たちが栃木と京都に分かれて応援してくれているなかで京都府選抜にPKで先制はされたが、自分自身は不安は全くなかった。（本当です）前半0-1で終了。そして後半2点を入れて逆転、残り時間もロスタイムのみ、「バンザイ」の準備で立ち上がった、しかし自分の眼を疑った、たぶん残り30秒もなかった、京都FWのすばらしい同点シュートが決まってしまった。延長では両チーム疲労のため得点を挙げられず、ついにタイムアップ。試合終了直後だけを見た人は京都府優勝のような騒ぎ、栃木県準優勝のような静けさ、しかし選手の皆さん、下を向くことはない、栃木県選抜は優勝したのです。3年

間負けていないのです。ベンチからの盛り上げ方も日本一だったと思うし、選手スタッフ全員でつかんだ優勝、3連覇となった。栃木県成年男子選抜チーム（選手、スタッフ）の皆さん感動をありがとう。そして新たな感動を与えるために頑張りましょう。夢は大きく成年男子、成年女子、少年と3種別が優勝できるように我々サッカーの好きな仲間達がサポートしていければ夢は叶うかもしれない。私の4月からの思い入れは最高の結果で終了しました。最後に、いろいろなかたがたに、いろいろな意味を込めて『ありがとうございました』と『お願いします』で応援記を締めさせていただきます。

国体V3達成！

栃木県成年男子サッカー主将
日立栃木サッカー部
柴田 知明



当時、私は県リーグ1部・日立栃木サッカー部に所属し、3年目のシーズンを迎えており、その年から国体成年サッカーのメンバーはセレクションを実施し、選抜チームでの参加となりました。このセレクションが私の国体への参加のきっかけとなり、また大橋監督、飯島コーチとの出会いでもありました。

2001年は何年かぶりに関東予選を突破したものの、宮城国体、翌2002年の高知国体では決して満足のできる結果を残すことができませんでした。ただ、この2年間は、静岡、埼玉、そして今年の岡山国体3連覇につながったのではないかと思います。メンバーもほとんど変わらず、それぞれの選手の特徴もわかってきていましたし、優勝できるチーム力がついてきたのです。

2003年の静岡国体では毎試合安定した戦いができ、特に決勝での富山県には4-0と圧勝し、見事優勝を果たしました。私自身も初の全国制覇でしたし、試合前の独特の緊張感と試合終了のホイッスルが吹かれた時の感動は一生忘れられません。

2004年の埼玉国体は、静岡国体で優勝していましたので、どういうモチベーションで臨めばいいのか難しい年でした。結局、宮城県との両県優勝となりましたが、栃木県の力を証明することができました。

そして今年の岡山国体ですが、主力が数名抜け優勝は難しいとの声もありました。しかし、優勝を決めた日には、国体3連覇を達成してもおかしくないチームへと変貌していたのです。

今年優勝の要因の一つはチームワークでした。主力が抜けたことで選手達が危機感を持ち、自然にチームワークが生まれたのです。そして何より大橋監督の気持ちが選手に伝わったのではないのでしょうか。

今までと違い、選手以上に声を出し、別人の様でした。そんな大橋監督をはじめ、細かいところまでアドバイスをくれた飯島コーチ、一人で選手の身体と心のケアをしてくれたトレーナーの村上さん達スタッフに国体3連覇という最高の恩返しができたと、みんなでサッカーを楽しむことができました。

栃木県サッカー選手権大会初優勝

日立栃木サッカー部監督 三関 隆

(チーム紹介)

日立栃木サッカー部は1947年に創部、日立ホームアンドライフソリューション(株)冷熱事業部を母体とした企業チームである。2003年度に関東リーグ2部に復帰、2005年度の関東リーグ2部の成績は7勝3敗4分けと3位の順位でシーズンを終えた。

監督に就任して3年目のシーズンに、チームに大きなタイトルである、栃木県サッカー選手権大会初優勝。そして、念願の天皇杯初出場を果たした。

(大会の状況)

今、大会を振り返ると、チームとしての戦術と共通理解、そして、一人一人の責任感を強く感じさせられる大会となった。守備陣(GK及びDF)は、昨年のメンバーと変わらず、攻撃陣(MF及びFW)に新入部員が加入し、新チームとして1月より練習をスタート。

練習試合では、3-5-2及び4-4-2のシステムを試しながら、多くの課題が残るまま、関東リーグ開幕となった。公式戦の中で選手同士が修正し、戦術と共通理解を深める状況となったが、大会へ参戦する時点では、課題を克服し、自信と緊張感を持って臨めた。準決勝戦の相手は、作新学院大学。終始押し気味に展開をしながら、なかなかゴールを割れず延長戦となった。延長後半にゴール前の反則からPKとなり、辛くもVゴール、1-0で勝利した。決勝戦の相手は、関東リーグ1部の矢板SCとの対戦となった。今回の大会は、栃木SCがJFLリーグ前期首位の成績で天皇杯への出場権を獲得したことから、矢板SC・日立栃木の両チームの勝者に、天皇杯出場への大きなチャンスを得た。

試合前に、選手一人一人に、日立栃木の負けないサッカーを基本に、守ってから速い攻撃を展開する戦術を確認して、選手をピッチに送り出した。前半の終盤に、左DFの久米からのクロスボールをFWの横浜がヘッドで合わせゴールを奪い、1-0とした。後半は矢板SCが積極的に攻撃するものの、DF柴田・栗原を中心に、GK馬淵がゴールを守り、最後まで集中力を切らさず無失点で押し、1-0で勝利を納め、天皇杯への出場権を獲得した。

天皇杯では、大阪府代表アイン食品に2-1と破れてしまったが、全国大会のレベルに通用するもの、しないものが本大会を通して分った。

(今後の活動)

本年度より、所在地の大平町を中心に日立栃木ウーヴァスポーツクラブへとクラブ化を行い地域のスポーツ文化の振興と地域社会の活性化に努め、地域密着型スポーツクラブを目指し、更なる飛躍の年になる様、選手及びスタッフ一同、積極的に活動していく。

この場をお借りして、協会の方々、チーム関係者、支えて頂いた数多くの方々に、感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

第36回下野杯争奪中学生サッカー大会

第36回下野杯争奪中学生サッカー大会が、12月29、30、1月6、14、15日と予定通りに終了した。少子化や部活動離れの影響で、参加チーム数の減少が懸念された今年度であるが、昨年と同数の過去最多150チーム(クラブ21チーム、中体連129チームともにBチーム含む)の参加によって熱戦が展開された。

この大会は、クラブと中体連がオープンでともに参加できる唯一の大会で、ここ2年間はクラブチームが優勝を飾っている。今年度は、中体連の巻き返しが期待される大会であった。

決勝戦は、県トレ8名を擁する栃木SCJYと中体連新人戦の覇者今市中との間で行われた。前半3分に今市中が先制したが、個人技に勝る栃木SCJYは、前半同点に追いつくと、後半には4点をあげ、見事初優勝を成し遂げた。栃木SCJYは、準決勝でも5得点をあげ、その攻撃力が光る大会であった。



<優勝した栃木SCJY>



<準優勝の今市中>

～地域だより～

「足利でJ」待望の開催

足利市で初めてのサッカー・Jリーグ公式戦が、11月19日、足利市総合運動公園陸上競技場で開催されました。対戦カードは、J2第41節・ザスパ草津対アビスパ福岡戦でした。

足利市での開催理由は、ザスパ草津のホームスタジアムである群馬県営敷島公園陸上競技場の改修工事と重なっており、近隣の開催地を探していた同チームから4月に、足利市民スポーツ課に打診があり、足利市サッカー協会に連絡が入りました。4月21日に、Jリーグ運営部の早藤氏とザスパ運営部が初めて会場を視察に訪れました。

J2のリーグ戦を開催するスタジアムには1万席の観客席、1500ルクスの照明、常緑芝等々6項目の条件が求められています。

足利市の会場は、日本陸上競技連盟第2種公認で、いずれも満たしていませんが、近隣に同等の代替施設がなく、ザスパ側がその後、数回施設を訪れて5月に開かれたJリーグ理事会で「承認」という形で開催が認められました。

足利市の協会としては、固定席1600席のグラウンドで開催されるのは無理かとあきらめていました。足利市民スポーツ課とサッカー協会は、条件を満たさないが、昨シーズンまでにJFLだったザスパが栃木SCと激戦を演じた場所、JFL戦としては異例の3300人余りの観客が声援を送り、足利市民のサッカー熱は高いという印象を残していたことと、試合運営をサポートする足利市サッカー協会の滞りない会場準備も実施済であることが、開催実現につながりました。

10月下旬にサッカー協会の理事会で、運営協力に際しての要旨もまとめました。試合前日、当日は協会加盟の少年、中学、高校、社会人部と、市職員の方々を含め160人のサポートを編成し、万全を期して望みました。

試合前はJ2・2位のアビスパが最下位のザスパを2-0で破り、J1復帰に王手をかけました。観客は、3215人でした。私は、観客が4000～5000人の場合をシミュレーションして万全に準備をしていました。試合が終わった後も、周辺のゴミ掃除、駐車場の整備、看板撤去等速やかに終了することができ、ザスパの運営部も感心をしていました。足利のボランティアの皆様の手順のよさには改めて感服しました。ザスパで片付ける半分の時間ということでした。ボランティアの皆様には感謝します。

試合の終わった後、晩秋の夕日が山の端に落ち、紅葉の美しかったことが、無事終えたこともあって、大変印象的でした。

私たち足利市サッカー協会の基本理念は、「サッカー文化の啓蒙と伝承」を唱え基本方針を実行しています。

私は、Jリーグ発足の理念“地域スポーツの拠点になる緑豊かな総合スタジアムを自治体・地元企業・市民団体の三者共同でつくる”この創設の理想の姿を、Jリーグ発足、フランスW杯出場、日韓W杯共同開催を通して地元根を下ろした茨城・静岡・埼玉・宮城・新潟等が活動を推進しています。私たち栃木県にも早く総合スポーツクラブを完成し、ヨーロッパでの「みんなでのスポーツ憲章」の中にある「すべての人はスポーツをする権利を持つ」という市民スポーツ権の確立を県民総意で実現しようではありませんか。

大量消費社会、管理社会、超高度情報化社会に疲れた大人、子供たちをスポーツで教えるのは、Jリーグが描く総合スポーツクラブ制度だけです。Jリーグ理念の貫徹を今一度強く望みます。

(足利市サッカー協会理事長 安達賢二)

社会人連盟表彰式

平成18年1月14日、ホテル東日本宇都宮にて平成17年度社会人連盟表彰式が開催された。

当日は、(社)栃木県サッカー協会 森山真弓会長をはじめ(株)下野新聞事業局長 村岡大学様、村上富士夫様、(株)モルテンスポーツ事業本部 及部晋太郎様に御列席いただき、雨の中にもかかわらず過去に例のない140名もの選手・役員の出席者で盛大に行われた。

森山会長から直接手渡される表彰に、選手たちは少しばかり緊張しながら仲間たちと喜びを分かち合っていた。



平成17年度 (社)栃木県サッカー協会賛助会員御芳名 (敬称略)

日立栃木サッカー部後援会
 栃木信用金庫
 Forty Six 壬生後援会
 FC道楽後援会
 栄研化学サッカー部後援会
 小松本孝寿
 緑川弘信
 栃木教員FC後援会
 FC真岡21後援会
 Free Style後援会
 十河大介
 花王FC後援会
 ジェイ・バス株式会社
 川原井 諭
 室井浩一
 YFC 21後援会
 曾雌晶教
 今市JSC後援会
 FCあわのレジェンド後援会
 八木沢弘光
 落東アスリート後援会
 フットボールクラブ部屋後援会
 大山フットボールクラブ後援会
 FC佐野後援会
 佐川野FC後援会
 奥澤直人
 北押原FC保護者会
 小野寺北小サッカー部後援会
 七合SC後援会
 揚茜ブラザーズ後援会
 揚茜クラブ後援会
 豊北SC後援会
 FCプロケード後援会
 さつきが丘スポーツ少年団サッカー部後援会
 国本サッカークラブ後援会
 鹿沼FCOB会
 埼玉FC後援会
 今市第三カルナバル後援会
 高根沢西FC保護者会
 大金 弘
 堀江寿一
 中條 勉
 烏山フットボールクラブウィングス11後援会
 烏山フットボールクラブウィングス後援会
 田野FC後援会

間々田FCがむしやら後援会
 FCグランディール宇都宮後援会
 ジェフシティ市原・千葉・宇都宮スクール
 小林敏明
 平野 浩
 FC西那須21槻沢後援会
 間東FCミラクルズ後援会
 山辺FC 親の会
 真岡西サッカークラブ保護者会
 西原FC後援会
 青木FC親の会
 FC西那須21アストロ保護者会
 佐藤 洋
 添野一雄
 FCブラジニア サポーターズクラブ
 GGP後援会
 河内サッカークラブ ジュベニール後援会
 NPO法人 栃木アマミスタスポーツクラブ
 NPO法人 AS栃木
 君島建設株式会社
 若林涼吏
 岡本FC後援会
 江川クラブ後援会
 芳賀中学校保護者会
 ヴァルティエサッカースクール小山支部
 矢口榮宏
 FC佐野ジュニアユース後援会
 滝の原サッカーOB会
 東那須野サッカースポーツ少年団後援会
 竹石秀夫
 荒川FC
 手塚健治
 栃木SCジュニアユース後援会
 FCスポルト宇都宮後援会
 共栄FC保護者会
 荒井隆志
 円印刷(株)
 佐野日大高校サッカー部保護者会
 宇都宮大学サッカー部OB会
 真岡ラディッシュファンクラブ
 宇東高サッカー部親の会
 宇都宮北高サッカー部OB会
 KSC鹿沼父母会
 鹿沼東光FC後援会
 黒川秀樹

稲村FC後援会
 SAKURA FOOTBALL CLUB Jr保護者会
 SAKURA FOOTBALL CLUB JY保護者会
 SAKURA FOOTBALL CLUB 後援会
 田中俊一
 益子高校サッカー部保護者会
 株式会社 ヌーベル
 大橋政夫
 真岡中学校サッカー部保護者協力会
 安達賢二
 佐田繁理
 大沢JFC後援会
 市貝FC後援会
 真岡パープルレディース後援会
 宇都宮サッカー協会
 國井世津子
 (有)スポーツショップ ヤマトヤ
 (株)タカサゴ
 (有)トータルヘルスクリエイト
 矢板中学校サッカー部保護者会
 市貝中学校サッカー部保護者会
 真岡東中学校サッカー部協力会
 宇都宮清陵高校サッカー部保護者会
 大高 和
 金田北中学校サッカー部保護者会
 FCクィーンズ後援会
 FCガナドール 後援会
 下山 浩
 矢板中央高等学校サッカー部保護者会
 阿久津好夫
 手塚貴子
 三島中学校サッカー部保護者会
 益子SCストラダ保護者会
 岡山力男
 岩本正弘
 帝京大学理工学部サッカー部OB
 国学院大学栃木高等学校サッカー部父母の会
 真岡高等学校サッカー部父母の会

オフィシャルサプライヤー
 ミズノ株式会社

ご協力ありがとうございました。

訃報



(社)栃木県サッカー協会顧問 矢口榮宏氏が平成17年12月31日、ご逝去されました。

本県サッカーの普及・振興にご尽力いただいたご功績に対し敬意を表しますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

合掌

(次号で追悼記事を予定しております。)

